

四季折々の詩

麻里布中学校
令和7年10月3日 No. 251
Tel 22-2234 FAX 22-2235



史上最高の体育祭「大衝撃 ～情熱 躍動 進化～」

9月27日、さわやかな風が吹く中、第70回体育祭が開催されました。代表の生徒で編成された実行委員会が中心となり、1学期には系の編成、実施種目や出場種目の決定、夏休みには応援団が応援内容を企画し2学期を迎えました。万全の準備で迎えたことにより体育祭練習から当日まで生徒主体の活動が展開され、全校生徒が一体となった史上最高の体育祭となりました。閉会式では実行委員長が、「一つの目標に向かって、全員が全力で動くことに感動した。団結力を高めることができた。」と挨拶しました。

今年度は、昨年度の反省と今年の猛暑を踏まえ、生徒が体調を崩すことなく最後まで全員が参加できることを念頭に置きつつ、生徒の大きな成長の場となることを願い実施しました。練習は、9月16日から開始し8時40分～11時40分まで、当日は、50分～1時間に1回の給水タイムを設けました。その対策もあり、大きく体調を崩す生徒はなく、体育祭を終えることができました。みなさまの御理解と御協力に感謝します。

中心となって活動した実行委員長と各隊の団長と副団長の感想を掲載します。

【体育祭実行委員長】

地域の皆様、今回も多くの応援をありがとうございました。今年は麻里布中、史上最高の体育祭になったと思います。今回の体育祭は麻里布中全体で作上げたと思っています。生徒だけの努力だけではなく先生方の努力や地域の皆様のサポートのお陰です。皆様にお礼申し上げます。



【白隊団長】

僕は、今回の体育祭を通して人を動かす力を伸ばせました。人を動かすには楽しい雰囲気じゃないと難しいところがあるので、いろいろ大変だったけど楽しかったです。白隊は練習から楽しんで全力で取り組めたので、団結力がすごく、ダブル（総合優勝と応援優勝）優勝をできたのだと思います。今後の行事も全員が楽しんで全力で取り組み、麻中を盛り上げて行きたいです。

【白隊副団長】

2週間の体育祭練習も体育祭もあっという間に終わりました。今年の体育祭では、全員が一つになって盛り上がり、たくさんの人の心に残った体育祭になったと思います。この体育祭を通して仲間の大切さを改めて感じました。全員で今年の体育祭を作れたこと、楽しめたことが一番の思い出です。麻里布中で良かったと心から思います。



【赤隊団長】

史上最高という目標をめざし麻中全員で頑張ってきて本当に良かったです。私は今まで3年間の体育祭で、今年がダントツで最高でした。涙を流す人もたくさんいて、いろいろな人が全力で頑張ったからこそ麻中生にとって史上最高となったのだと思います。体育祭の勢いをそのままに、これからの行事も最高なものにしたいと思います。麻中で、団長で本当に良かったです。



【赤隊副団長】

僕は副団長として大勢の人を引っ張る仕事の難しさと大切さを知ることができました。練習の時に上手く指示が通らないことが多く、とても大変でしたが、本番が近づくにつれ指示が通り、みんなが全力で楽しむ姿を見ることができて良かったです。残りの中学校生活、この副団長の経験を生かし、みんなが楽しめるように努力し盛り上げ、もっと素晴らしい麻中をつくりたいです。

【青隊団長】

青隊は、隊全員が応援から演技、競技まで全力で取り組んでいて私もみんなのその姿に影響され、青隊を優勝させたいという気持ちが強くなり、より熱い体育祭にすることができました。このメンバーでできる体育祭は1回きりだったけど、とてもよいものになりました。ありがとうございました。



【青隊副団長】

体育祭を中心となって作り上げる「実行委員」として、隊をまとめる「副団長」として、「今年の体育祭で改めて引っ張っていく立場の責任は重大だなあ」と感じました。指示が上手く通らなかったり、教えるのが難しかったり大変な面がたくさんありました。でも、全力で練習に取り組む仲間の姿、学年を超えての団結力、楽しんでいるときの顔を一番近くで見ることができました。全ての人の胸に残り続ける体育祭という目標に麻中生全員で取り組めたことを誇りに思います。

岩国市新人体育大会

9月20日、21日に岩国地区中学校新人体育大会が開催されました。目標としている成績に届かなかった部もありますが、練習の成果を発揮するため、懸命にプレーしている姿が見られました。生徒は新たな目標に向かって、スタートしています。



10月11日、12日に開催される県新人体育大会に出場する部は次のとおりです。

【陸上競技部、男子バスケットボール部、ソフトテニス部男子、剣道部、柔道部】

3年生美術科 篆刻

10月2日、3日に3年生の美術科授業に岩国篆刻会の方を講師にお招きし、篆刻を行いました。生徒は、錦帯橋がああになるヒントをくれた人物が、日本に初めて篆刻を伝えた独立性易禅師（どくりゅうしょうえきぜんじ）であることから、岩国市は篆刻と深い関わりがあることを学び、思いを込めて制作をしていました。

